



新型コロナ感染が続く中、日本共産党道議団は要請を行い、議会で対策を求めてきました。迅速なワクチン接種と検査の拡大的拡充、自粛に対する休業補償や中小企業支援、医療体制の強化と損失補てん、医療・介護労働者への支援、旭川市の宿泊療養施設の2カ所設置と効率的運用など道民の切実な声や要望を議会に届け、実現に努力してきました。

真下紀子議員は第4回定例道議会で、過労死ラインを超えた保健

保健所の抜本的強化を

「命」大切にする道政へ

感染拡大に対応できる医療・保健体制を

何より命を大切にする道政の実現に奮闘していきます。

私学助成 道補助金増やし、充実を

私立高校と公立高校の格差を縮小するため、国費では生徒一人当たり3年間で9,133円増額する一方、道単独措置費は2,743円も減らしてきました。真下議員は、国費増額と逆に道が減額するという前知事からの悪弊を断ち、2万人を超える署名に応えて法の下の平等、教育の平等と機会均等から公私間格差と地域間格差の解消が不可欠と主張。

また、入学金など20万円を超える入学時納付金等の負担軽減とともに、年収590万円としている就学支援金の所得制限の緩和を求めました。

生徒一人当たり 補助単価	国 費	道単独措置費
2019年度	349,447円	5,872円
2020年度	354,729円	3,788円
2021年度	358,580円	3,129円

道議会・道政へのご意見・ご要望をお寄せください。 E-mail:m.noriko.office@gmail.com

公式
ホームページ



道、職員採用案内変更へ 障害に合理的配慮求める

障害者雇用促進法が制定された2019年以降、道は身体障害に限定していた採用試験を精神・知的障害のある人にも広げました。しかし、正職員・臨時職員とも知的障害者の採用実績がほとんどありません。愛知県や東京都では、就業環境や採用者数を公表し、毎年採用していますが、道は背を向けてきました。

12月議会で、「一律試験で一律の合否判定のままでは、障害に対する合理的配慮があるとはいえない」と指摘した真下議員。京都府と道の採用案内を鈴木直道知事に示し、「採用案内も知的障害に配慮されていない」とのべ、見直しを求めました。

鈴木知事は、「わかりやすい試験案内は必要。人事委員会と協議していく」と答え、採用案内の見直しに言及しました。



真下議員の質問に答える鈴木知事

知事、高看パワハラ認める 「救済、再生に全力で対応」と答弁

第三者委員会がパワハラを認定し、道も認めた道立江差看護学院のパワハラ問題。これまで繰り返し、学生の救済、再発防止策と関係教員の厳正な対処、学院の再生等を求めてきました。

「知事は、行政区も所管も全く違う旭川のいじめはあったと発言しましたが、自らが責任を負う道立高看のハラスメントを認めていません。認めて謝罪することが救済の前提」と追及した真下議員。鈴木知事は「ハラスメントがあった事案」とやっと認め、「学生の救済と学院の再生に全力で取り組む」と答えました。（12月議会）

福祉灯油は生活保護世帯も対象にできます。予算特別委員会で、収入認定しないよう求めた真下議員の質問を受けた道保健福祉部は、二度にわたってその旨を市町村に通知しました。収入認定の上限を超える場合は国に照会し、柔軟に対応するとしています。また、全道の実施状況を超える場合も添付され、実施状況が一目瞭然です。



Smart 道庁って何？

Smart道庁（賢い、高性能な）と銘打った道庁改革がすすめられていますが、中身はデジタル化による業務改革、スリム化です。これまで公用スマホがなかった職員に一人一台配備するだけ。「効率化によって組織活力の向上と道民サービスの向上を目指す」と総務部は答えましたが、何をするのか明確ではありません。

総合政策部は、行政の集めた情報を匿名加工して公表するオープンデータ化を進めると答えました。しかし、Smart道庁の工程には入っていないと総務部が明言。

個人情報は匿名加工されてもビックデータと組み合わせれば個人情報に限りなく近づくと言われています。行政が特定の目的で集めた、詳細で正確な個人情報を、民間の利益に供することにつながりかねません。

また、道のメール送信方式は、特定のアプリがないとスマホでは開けず、セキュリティも脆弱だと指摘されています。真下議員はすでに国も民間も撤退し始めているとのべ、見直しを求めました。

扶養照会 義務でない

生活保護を申請するときに、親族に対して扶養できるかどうかを照会されることが、申請の壁となっています。真下議員は9月議会で「扶養照会のために保護の申請をためらう現状は、一刻も早く改めるべき」と追及。三瓶徹保健福祉部長は「窮迫した事由がある場合に必要な保護を行うことを妨げるものではない」と答え、扶養照会にかかわらず、保護を実施する姿勢を示しました。

赤潮対策 漁業継続に支援を！

太平洋沿岸の赤潮被害は82億円を超え、回復までに数年かかると見込まれています。その間の調査と原因究明、何より漁業が継続できるよう従来の枠を超えた対策が必要と、金子原二郎農水大臣に緊急要請。12月議会で補正予算を可決。



みんなの声届け 道政動く...



ジェンダー平等の視点を「ミス〇〇」質問契機に見直しへ

道職員と審議会委員の女性比率の向上、男性職員の産休・育休取得促進、ジェンダー平等を求めています。未婚女性に限定した「ミス日本みどりの女神」「ミス北海道米」、ジェンダー視点の質問を契機に見直しが始まりました。

旭川いじめ問題 教育長「重大に受け止める」記録なし 指導責任の検証を

旭川の女子中学生に対するいじめ問題、道教委はいじめと認識していたにも関わらず、旭川市教委に対する指導記録を残さず、文書報告を求めていなかったことを明らかにしました。重大性の認識を欠いた対応を追及、指導責任の検証を求めました。倉本宏史道教育長は「重大に受け止め、いじめ問題の対応を検証する」と答弁。



6月議会

気候危機

温暖化対策に逆行する泊原発

気候危機が深刻です。真下議員はあらゆる分野で省エネ・再エネ目標を積み上げ、達成することが将来への責任だと主張しています。



9月議会

ところが、泊原発の建設以降に、1,743億円にのぼる原発マネーが投じられ、2012年の全停止からいっさい発電していないのに維持費用に5,641億円もかかり、維持するために約2万世帯分の電力を消費しています。温暖化対策に逆行する泊原発の早期廃炉を求めました。

原発、核のごみ処分場に関する質問をパンフレットにまとめました。お問い合わせは真下事務所まで



議会改革を提言

日本共産党道議団は政務活動費のネット公開、海外調査費廃止、議会庁舎の禁煙など議会改革の提言を小畠保則議長に提出、改革協議推進を求めました。



議長に申され (9/14)

「ミス〇〇」質問契機に見直しへ

道職員と審議会委員の女性比率の向上、男性職員の産休・育休取得促進、ジェンダー平等を求めています。未婚女性に限定した「ミス日本みどりの女神」「ミス北海道米」、ジェンダー視点の質問を契機に見直しが始まりました。

ブラック校則 実態調査もとに提案 —すすむ見直し地毛証明、ツーブロックの禁止—

地毛証明やツーブロック禁止、下着の色指定、男女の制服区分など、過剰な管理教育による合理性のない校則が問題視されています。日本共産党道議団は4月、191の道立高校の校則を分析し、記者会見を行い、校則の見直しを呼びかけました。

真下議員は、調査結果を踏まえ、一般質問、予算特別委員会で校則問題をとりあげました。

6月8日に校則の見直しをすすめるよう、文科省が通知したと紹介。ツーブロックがOK、髪型は自

由にになった、スラックス・スカートを選べるようになった、男女交際の規定や郊外活動の届け出、下着の色指定等を廃止した他県の取り組みも紹介。

「すべての子どもを尊重する教育の視点で生徒と学校関係者、保護者が意見を重ね、校則の改善にとりくむよう」訴えました。倉本宏史教育長は「校則を見直すことで、生徒の個性が尊重され、よりよい学校生活を送ることができるよう、引き続き助言していく」と、見直しをすすめる姿勢を示しました。



記者会見で公表 (6/16)

道立高校全日制191校を対象に共産党道議団の実態調査から

- ◆「ツーブロック禁止」27校、服装や頭髪を「華美でないもの」134校、「明朗さ」66校、「高校生らしさ」70校、「校外活動の届け出」102校
- ◆校則をHPで公開は1校だけ、校則改正が書かれているのも1校しかありません。

「香害」公共の場で香料白瀟を周知

化学物質を原料とする香り付きの合成洗剤や柔軟剤、消臭剤などが原因で、化学物質過敏症の発症につながる「香害」が増えています。当事者の方々の声を聞き、環境生活委員会で質問。道は「公共の場での香料使用の自粛を周知する」と答え、道のHP・ブログ・Twitterで、人工香料による問題について説明を掲載。

製品の使い方に配慮をお願いする広報を配信しました。



上川総合振興局で要請 (2/16)

JR減便 高校生「困る」部活帰りに代替バス実現!

JR北海道の21年春のダイヤ改正で深川発留萌行が減便になるという事態に「部活帰りの足がなくなつて困る。帰宅が21時を過ぎしまうので、通学の安全も心配」という高校生や関係者の声が真下議員に届きました。

地方路線問題対策委員会で生徒の「困る」の声を紹介して、懸命に質問。質問を聞いた喜多龍一委員長が「個別のこととはいえ大切なことだ。当委員会として道にJRとの協議と報告を求める」と提案。委員会は全会一致で決定しました。

道は、高校生にアンケートを実施し、JRとの



深川西高の山本英人校長らと意見交換 (2/26)

協議に入りました。

真下議員は深川西高と深川駅利用者の声を直接聞きとり議会で紹介。ダイヤ改正で減便した列車の代替バスが運行されることになりました。

アイヌ政策に提案反映

アイヌ政策推進方策に和人による侵略と同化政策などの正確な反映、慰靈につながる遺骨問題の明記、就学年齢や履修科目など教育格差、旧土人法に対する批判的見地などの修正提案が反映されました。



3月議会

ヒグマとの共生／市街地でも対応策を

旭川・札幌市中心部にヒグマが出没し、人間の生活圏に入り込むヒグマにどう対応し、共生をはかるのか、新たな対応が求められます。環境生活委員会で生息数の把握、専門家の養成、市街地での対応などの検討を提案し、道はとりくみを表明しました。

